

兵庫・玉津田中遺跡

たまつ
たなか



(高砂) 玉津田中
(高さ)
10 cm ほどの檜皮を敷きつ

立地しているところが大部
分であるが、標高二三m前
後の洪積段丘上にも遺跡の
存在を確認している。

出土した木簡は一点のみで、柾目材を使用しており、上端部は欠
損している。判読できる文字の上部にも、墨書のあとがみえる。
(山本三郎)

(290) × 37 × 3 059

めていた。木簡は、檜皮層の中から出土した。他に、火焰の形をし
た木製品、平瓦、土器が伴出しており、須恵器から平安時代末～鎌
倉時代初頭に比定できる。

中世の遺構としては、池状遺構、鍛冶炉、溝状遺構などがある。
池状遺構の上層からは、数万点におよぶ土師器の小皿・壺を中心と
する完形品が出土しており、下層からは、将棋の駒、独楽、下駄、
漆へらなどの木製品、漆器碗が出土している。また、同地区から、
墨書き器も多く出土している。

8 木簡の篆文・内容

(1) (符籤)急々如律令

